

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会

第8回会議 会議録（要旨）

1 日 時

平成30年9月3日（月）19:00～20:20

2 場 所

函館市医師会病院 5階講堂

3 出欠状況

メンバー：寺田部会長，水越副部会長，岩井メンバー，川口メンバー，酒本メンバー，山本メンバー，益井メンバー，京谷メンバー，齋藤メンバー

部会運営担当：（函館市医療・介護連携支援センター）佐藤，柳谷，長谷川，鎌田

事務局：（函館市地域包括ケア推進課医療・介護連携担当）栗田主事

4 議 事

○報告事項

- (1) 平成30年度多職種連携研修計画の実施状況について
- (2) 研修情報一元化と提供について
- (3) センターホームページ「コラム」の掲載について

○協議事項

- (1) 第4回函館市医療・介護連携多職種研修会について

5 会議の内容

栗田地域包括ケア推進課主事

ただいまから，函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の第8回会議を開催いたします。前回の会議でも確認いたしておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

次に，第7回の会議録についてですが，事前に各メンバーの皆様にご確認をさせていただきました。事務局の方には，特に修正のご意見がございませんでしたので，原案どおりで，第7回会議録を確定させていただいて，市のホームページ上で公開させていただきます。

本日は，北海道看護協会，道南南支部の中村メンバー，函館地域医療連携実務者協議会の船山メンバー，道南訪問看護ステーション連絡協議会の高畑メンバーが所用により欠席となっております。

それでは，本日の資料を確認させていただきます。事前に会議次第1枚，資料1から13まで全部で裏表の印刷含め合計23枚を送付しておりますが，本日お持ちでない方はいらっしゃいますか。また，あらかじめ机上に座席表と出席者名簿を配布させていただいております。

す。

次に、部会メンバーの交代がございましたので、ご紹介させていただきます。お名前だけなんですけども、函館市居宅介護支援事業所連絡協議会の中村清秋様にかわりまして、居宅介護支援事業所アニーの渡部良仁様、まだ到着してないので、後でご紹介させていただきます。北海道柔道整復師会函館ブロックから齋藤久剛様にかわりまして山本整骨院の山本康文様が部会メンバーとして就任されました。渡部様と山本様には、医療と介護の連携について、簡単で結構ですのでご挨拶をいただきたいと存じます。それでは、山本様よろしく申し上げます。

山本メンバー

皆様、こんばんは。はじめましての方は少ないですけども、私は山本整骨院の山本康文と申します。柔道整復師になる前は、社会福祉士として福祉の業界で3年間働いておりました。まだまだ未熟な部分がありますが、今後ともよろしく願いいたします。

栗田地域包括ケア推進課主事

山本様、ありがとうございました。また、部会長、副部会長にも交代がございましたので、ご紹介いたします。新しく多職種連携研修作業部会部会長にご就任いただきました、函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 社会医療法人仁生会西堀病院の寺田昌弘様、同じく副部会長にご就任いただきました、一般社団法人函館薬剤師会 株式会社はこだて調剤薬局の水越英通様でございます。一言ずつ、ご挨拶をいただきたいと存じます。

寺田部会長

皆さん、こんばんは。部会長に就任させていただきました、西堀病院の寺田と申します。皆さんの顔ぶれを見る限り、ほぼ昨年と同じメンバーということで、とても心強く感じております。去年よりも今年、皆さんの力を合わせてより良い活動ができればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

水越副部会長

今期より副部会長となりました、水越です。今まで、酒本さんが中心となって作ってきた研修部会のノウハウがあるわけですから、それを活かしながら寺田新部会長を支えながら進めていきたいと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

栗田地域包括ケア推進課主事

寺田様、水越様ありがとうございました。また、幹事にも4月1日付で異動がありましたので、ご紹介いたします。前任の川村にかわりまして、新しくセンターの事務員になりました、鎌田様です。

鎌田

事務を担当しております、鎌田と申します。よろしく願いいたします。

栗田地域包括ケア推進課主事

鎌田様、ありがとうございます。本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは寺田部会長、お願いいたします。

寺田部会長

はい、では、皆さんよろしくをお願いいたします。それでは、次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。報告事項（１）「平成３０年多職種連携研修計画の実施状況について」を、佐藤幹事から説明をお願いいたします。

佐藤幹事

皆さん、こんばんは。幹事の佐藤でございます。資料１報告事項の（１）「平成３０年多職種連携研修計画の実施状況について」につきまして、ご報告いたします。資料３、４をご覧ください。昨年度末に開催の第７回会議で承認いただきました、多職種連携研修に関する基本方針と平成３０年多職種連携研修計画でございます。計画に沿って実施状況をご報告いたします。資料４のテーマに沿ってご説明いたします。

（１）相互理解の促進 ①医療関係者向け研修です。資料５をご覧ください。昨年度と同様、「介護保険の概要～退院を見据えた展開」として、包括支援センターゆのかの京谷様に講師を依頼しております。今年度は３病院での開催といたしまして、１回目は５月２４日に中央病院で、２回目は８月２９日に市立函館病院での研修が終了しております。それぞれの参加人数が、資料１に戻りまして、中央病院は院内５８名、院外３８名の合計９６名。市立函館病院では、院内２１名、院外２６名の合計４７名の参加がありました。京谷様のご講演は、「入院中から、退院を見据えて連携をとっていくことが大切だと分かりました」、「大変わかりやすい」、「また開催してほしい」と終了後のアンケートでも好評のご意見をいただいております。今年度３回目となります医師会病院での開催は、来年２月２１日と日程が決定しております。案内文書は、年明けに医師会病院の職員その他、１回目、２回目と同様に、医師会員、歯科医師会、薬剤師会、MSW協会、函館地域医療連携実務者協議会、鍼灸マッサージ師連絡協議会、北海道柔道整復師会函館ブロックと医療系の団体様宛にも発信する予定でございます。

次の②介護関係者向け研修ですが、資料６をご覧ください。こちらも昨年同様、「病院の機能と役割について知ろう！」と題し、国立病院の廣瀬様に講師をお願いしております。１回目は５月２５日に居宅サービス事業所職員、２回目は８月２３日に施設・居住系事業所職員を対象に開催しております。資料１に戻りまして、１回目は７９名、２回目は６５名の参加がありました。こちらも終了後のアンケートでは、「病床機能と長期療養に関わる区分が理解できてよかった」「大変役に立つ内容だった」「今後の連携に役立てたい」とのご意見をいただいております。今年度３回目は、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム職員を対象に、来年２月の開催を予定しております。日程につきましては、会場となりますテレシアターの予約の関係で、未定となっておりますが、今月中には確定する予定ですので、決まり次第ご報告いたします。

続きまして、③オープンカンファレンスですが、４月２６日国立病院、参加者１４７名、６月１９日五稜郭病院、１２６名、８月３１日市立函館病院、１１６名と、それぞれ開催病

院の担当者の方と協働して実施しております。内容に関しましては、毎回、ケースを通じて社会資源の情報や制度の説明などもあり、実践に役立つ情報提供もあります。また、川口先生の進行がとても好評でして、「進行が良く、それぞれの現場での声が聞けて勉強になった」「また参加したい」「今後も継続してほしい」との声をいただいております。今後も川口先生を中心に、開催病院と協働しながら定期的開催していく予定となっております。

④の意見交換会は、来年度以降からの取組みとなっております、今年度は実施の予定はございません。

続いて(2)連携強化ですが、⑤の看取りについては、今年度は10月20日に大規模研修会として実施予定です。詳細につきましては、後程改めてご報告いたします。

⑥入退院支援その1、「はこだて入退院支援連携ガイド」活用促進ですが、退院支援分科会の方で現在協議中となっております。现阶段では、11月あたりに入退院支援に直接関わっている専門職の方々を対象に、事例をもとにしたグループワーク形式での研修会を開催予定です。

⑦の入退院支援その2、「はこだて医療・介護連携サマリー」活用促進ですが、今年度からの本格運用開始にあたり、7月に利用状況のアンケートを実施したところでございます。情報共有ツール作業部会でアンケート結果をもとに分析をすすめ、研修会の開催は今後必要に応じて検討していくという段階でございます。

⑧の急変時対応に関しましては、今年度は、センター職員が入所系施設を訪問し、各施設での急変時の対応に関する取り組みの情報収集をしているところです。その情報をもとに来年度以降研修会を実施する予定となっております。

(3)専門性の向上⑨ですが、現在は出前講座等でセンターについての周知活動を中心に行っているところです。計画書に記載されております「在宅医療と在宅介護への理解の促進」というテーマでお話しするに至っていないのが現状です。来年度以降、テーマを見直しつつ、各団体へのPR方法も考えて行く必要があると考えております。

(4)人材育成につきましても来年度以降からの取組みとなっております、今年度は実施の予定はございません。報告事項(1)のご報告は以上でございます。

寺田部会長

佐藤幹事、どうもありがとうございます。では、今説明いただいた内容に関しまして、皆様からご意見等をいただきたいと思うんですけども、皆さんいかがでしょうか。

京谷メンバー

包括連協の京谷です。研修の中で、先ほど川口先生のオープンカンファレンスの部分だったんですけども、私も国立病院のカンファレンスに参加させていただいたんですが、すごくそれぞれの立場でどういうふうに配慮し合えばいいか、どういうふうに連携すればいいかが見えるかたちのカンファレンスで、一緒に行った職員とかもいたんですが、こういうカンファレンスだったらすごく参加しやすいよねというのと、学びやすいよね、気軽に参加できるよねって感激して帰ってきたカンファレンスだったので、こういうかたちのものがたくさん開催されると、それぞれの職域の人にとってプラスだなと私も学びが深まったカンファレンスでした。

寺田部会長

京谷さん、ありがとうございます。他に何かありますか、ございませんかね。なければ、次の議事に進めてもよろしいでしょうか。次ですね、資料1の(2)「研修情報一元化と提供について」を、佐藤幹事からご説明お願いいたします。

佐藤幹事

資料1報告事項の(2)「研修情報一元化と提供について」につきまして、ご報告いたします。平成30年4月から8月までの研修情報の収集と情報提供につきましては、合計14件となりました。内訳としましては、センター主催のものが7件、他団体様主催もしくは共催のものが7件となっており、道南在宅ケア研究会、函館市地域包括支援センター連絡協議会、道南地区老人福祉施設協議会などより依頼をいただいております。前回の部会にて、当協議会に参加している団体様が主催の研修会に加え、共催の研修情報も掲載可能となりましたので、今年度もこのまま継続としていきたいと思っております。報告事項(2)のご報告は以上でございます。

寺田部会長

はい、ありがとうございます。では、ただいまの報告に関しましても、皆様からご発言をいただきたいと思うんですが、皆さんいかがでしょうか。特にございませんか。

京谷メンバー

先日、医療関係者向けの研修を行った時に参加してくださっていた病院の看護師さんが、函館市内でどのような研修があるのか、今まで医療の立場で研修にいろいろ参加してきたけれども、連携する立ち位置になった時に、多職種の研修だとかもどういうふうに行っているのか知れば、参加しながらそれぞれの職域について学びたいという声がありましたので、「ホームページ見ると研修見れますよ」ということもお伝えさせていただいたんですけども、数でみるとやっぱりまだまだちょっと足りないかなと思ったので、自分の団体から意識して載せていくようにしていかなきゃいけないなと思っていました。以上です。

寺田部会長

ありがとうございます。他に何かご意見はございますか。私も、今回10月のコロポックル主催の高次脳機能障害の勉強会の役員として参加させていただいて、花びしホテルで比較的大きい研修会を企画するというので、役員会に入ったんですけども、他の研修会と日程が被りたくないという意見があったんですが、その場でこういった活動をセンターでしているよと提供したところ、全くそういうことをわからなかったというところもあったので、もっと積極的に色んなところに発信してもいいのかなと思いましたので、ぜひこれからもさせていただきますと思います。

佐藤幹事

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

寺田部会長

あと、皆さんよろしいでしょうか。では、なければですね、次、資料1の(3)「センターホームページ「コラム」の掲載について」を、説明お願いいたします。

佐藤幹事

報告事項の(3)「センターホームページ「コラム」の掲載について」、ご報告いたします。昨年の大規模研修会での15職の紹介を、センターホームページでコラムとして掲載するという取り組みです。資料7をご覧ください。今年4月からですね、医師の川口先生、看護師の高畑様と、順番にこのようなかたちで掲載しております。研修会当日にお話しいただいた原稿をもとにセンターで作成したフォーマットに入力していただき、掲載しております。センターホームページのトップ画面に「コラムを見る」の 카테고리を追加しております。そこから職種ごとに閲覧することができるようになっております。当日の発表順にご依頼しております。現在は保健師の笠島様の分まで掲載となっております。順次、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、栄養士と、今年度中には15職種全て掲載できるように進めてまいります。シンポジストになられた部会メンバーの皆様には、お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力の方よろしくをお願いいたします。なお、当日使った原稿等があれば、センターの方で編集いたしますので、おっしゃっていただければと思います。報告事項(3)のご報告は以上でございます。

寺田部会長

はい、ありがとうございます。ただいまの報告に関しましても、皆様からのご意見等をいただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、次の議事に進んでもよろしいでしょうか。では、資料8になります、「第4回函館市医療・介護連携多職種研修会について」に関して、佐藤幹事から説明お願いいたします。

佐藤幹事

資料2協議事項(1)「第4回函館市医療・介護連携多職種研修会について」ご説明いたします。資料8をご覧ください。第4回目となります。大規模研修会の素案でございます。皆様にはメールにてお知らせしておりましたが、多くの方が参加する研修会でもありますので、早くからセンターの方で日程と会場を決めさせていただいておりますことをご了承ください。今年度は国際ホテルを会場に、10月20日土曜日、例年通り14時から17時までといたします。終了後の懇親会も予定しております。対象は、市内の医療・介護関係者で、定員は360名です。今年度は、広く参加を募ることを目的に、グループワーク参加者240名のお席の他に、聴講だけの参加ということで120席の聴講席を設けさせていただきました。それに伴いまして、資料10をご覧ください。各団体様ごとのグループワーク参加依頼人数を、昨年度の参加実績をもとに割り振りさせていただいております。日程が詰まっている状況でもあり、当協議会に参加されております団体様に関しては、すでに各団体長様あてに9月20日を締切に、グループワークと聴講のみの参集の人数の確認と取りまとめをお願いしております。資料11、12、13を送らせていただいております。看護協会に関し

ましては、参集方法と人数について現在も協議中となっております。聴講席に関しましては、各団体様に5席ずつ確保する他に、残りの45席は当協議会に参加していない団体様、下の方に記載しておりますが、昨年度ご協力いただきました栄養士会、ヘルパー連協、福祉用具事業所の他、デイサービス連絡協議会、老健協、リハビリの3士会などにもご案内できればと考えておりました。その他、今年度、急変時対応の関係で施設訪問を実施しております、小規模多機能型居宅介護施設、グループホーム、特定施設、サービス付き高齢者向け住宅等にお邪魔させていただいた際に、大規模研修会についてお話する機会がございましたので、施設訪問にご協力いただいた施設には、ご案内することができればと考えております。ただ、45席と限られた席ですので、割り当てる数などにつきましては、センターに一任いただければと考えております。ご協議いただきたい内容は、資料2協議事項(1)ア「参集について」となります。この、聴講席の参集先などにつきまして、皆様にご協議をいただければと存じます。

寺田部会長

はい、ありがとうございます。では、ただいまの説明に関しまして、皆様からご発言、ご意見をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。まずは、定員が今年度は360ということで、去年は？

佐藤幹事

240くらいでしたかね。

寺田部会長

大幅に今回は会場も変えて広げたと。グループワークに参加できる方が240名、聴講ということで新たに120名という取り組みをしたというところに関しまして、皆様からこういう場合どうするんだろうとか、聴講の方はどういう参加になるんだろうとか、いろんな疑問があると思うんですけども。はい、酒本さんお願いします。

酒本メンバー

北海道医療ソーシャルワーカー協会南支部の酒本です。今、各医療機関に呼びかけをしているんですが、その中で聴講のみを希望された方、シンポジウムは当然聴講というかたちなんですけど、グループワークも聴講していただくのか、あるいは、シンポジウムだけ参加して退席してもいいのか、そのあたりどうなんだろうという意見がありましたので、わかる範囲で教えていただければと思います。

佐藤幹事

まだまだ、検討が必要な状況かとは思いますが、現段階で考えている案についてご報告いたします。聴講席に座られている参加者に関しましては、シンポジウムが終わった時点で退席される方がいらっしゃれば、それはそれで構わないかなと思っておりました。ただ、シンポジウムが終わった後、グループワークが終わった後、さらにディスカッションの時間がございますので、そのお話も聞きたいという方がいらっしゃったらそのまま残っていただい

て、グループワーク中はグループにはなりません、近くに座っている方々とやり取りできるようなかたちでご提案をしていきたいと考えておりました。

寺田部会長

酒本さん、よろしいでしょうか。

酒本メンバー

はい。ありがとうございます。

水越副部会長

これが全て終わった時に質問、ディスカッションする部分は発言していただいていたという事でよろしいですね。聴講もできますし、全て終わった後に、シンポジストの先生方にお話も聞くということも可能ですね。

寺田部会長

他にございませんか。

川口メンバー

道南在宅ケア研究会の川口です。毎年、医師の参加が少ないんですけども、去年もちらっとお話ししましたけれども、医師会さんを通じて、確かに自分のところにもどうやってきたか覚えてなくて、各医師にこの情報があまり届いていないような、勝手なイメージですけども。例えば、勤務医の方にアプローチするとき、医師会さんから直接だとなかなか行かないかもしれないので、その病院の医局あてとか、それでどれだけ参加するかはなかなか難しいのかもしれないですけども、そのアプローチということで、たしか去年は院長あてにFAX送っているという話でしたね。その辺の対策をたてていただければと思っていました。

寺田部会長

川口先生ありがとうございます。佐藤さんから何かございますか。

佐藤幹事

病院長あてよりも、病院の医事課なり、総務課なりでしょうか、そういったところに案内を流した方が先生方のお手元に届きやすいでしょうか。

川口メンバー

その病院によるでしょうね、きっとね。難しいですかね。

佐藤幹事

何かしら方法を考えたいと思います。より多く、皆さんに、特に先生方にも参加していただきたいと思いますので、お手元に届きやすい方法を検討したいと思います。現段階では、医師会員となられている先生方が所属する医療機関の病院長あてにセンターから直接F A

Xを送るというかたちでご案内しておりますので、これを検討したいと思います。

川口メンバー

医師会員には、医師会報が月1回とか来るんですよ。それに案内が入っていたかの去年の記憶が定かではないんですけども、もしかしたらそれに別枠で案内が入っているといいのかもしれないですが。ただ、医師が個人で申し込むとその団体が統括、人数とか、ちょっとそれがややこしくなるので、それがいいのかどうかですけど。周知という意味ではそれに入れるのがいいのかなという気はしましたけど。その個人にいったものを参加したい人は医師会に出してくださいとなれば医師会で取りまとめになるという感じでしょうか。

佐藤幹事

いや、センターで取りまとめます。医師会報？函医だより？わかりました。検討したいと思います。先生方の申し込みはセンターとなりますので、私たちの方で把握して調整可能ですので。ありがとうございます。

寺田部会長

はい。他に何かございますか。

岩井メンバー

歯科医師会の岩井です。歯科医療系の話をちょっとしますと、例年、去年も20名の枠を入れてもらったんですが、とにかくまずは歯科医師だということで20名のうち、15名くらい歯科医師会の会員。そして、歯科医療連携室の歯科衛生士さんも5人くらい入れて去年、一昨年と出させていただいているんですが、今年も5名枠アップで25名ということで、歯科衛生士も入れての数になっているんですが、今年は今年で全然構わないんですが、そろそろ我々考えているのが歯科衛生士を口腔ケアにどれだけ参加させるかということで、内向きの講習会を一生懸命やっているんですけども、そろそろこういうところにも歯科衛生士会というものも実はありますので、歯科衛生士枠も来年以降で構いませんので、ただバランスありますからね、見てると本当に色んなすごい団体の数なので、できる範囲で構いませんので、お願いできたらなと思っておりました。

寺田部会長

はい。ありがとうございます。この件に関してはセンターの方で引き続き検討ということでもよろしいですか。

佐藤幹事

そうですね。グループワークを行える規模がどうしても限られておまして、テーブル数、人数の制限がかかってしまうところがございます。ただ、いろんな団体さんに参加してもらいたいと私たちも思っているところではありますので、何か良い方法が無いかなと常に模索しながらですね、検討していきたいと思っておりました。今年度、聴講席を設けるというかたちを取らせてもらって新しい取り組みとして私たちもチャレンジしているところでして、

できるだけ多くの団体さん、多くの皆さんに参加していただけるよう検討しながら進めていきたいと思います。

岩井メンバー

そうですね。今年の聴講、これは実はすごく良いことだと思っていて、グループワークももちろん大事で、これはぜひともやってほしいと思うんですが、聞くだけでもこれだけの人が、いろんな職種の人がいるっていうのを実際に見て、すごいなと思って見てくれるだけでもたぶん刺激になると思うんですよね。実際、歯科医療系でも全然多職種の人とまだ触れられていないという人がすごく多いので、このグループワークなしの出席でも、これが増えるとまた違ってくるかなと思っています。

寺田部会長

はい。ありがとうございます。他にご意見等ございますか。

水越副部会長

簡単な補足なんですが、今回の会場は国際ホテルで、このグループワークと聴講席と別と同じ会場に懇親会場があるんです。そこを削ってまで広げるかって最初こちらの方でも考えたんですけども、そう考えると結構マックスの人員配置に今回はなっていると思います。なので、国際ホテルは皆さんご存知のとおり、おそらく函館市内のホテルの中では一番大きな会場を有しているホテルですので、これが今回やってみてうまく機能すれば、これがひとつの目安にはなると思うんですよね。そういう意味でぎりぎり、目いっぱいです。

寺田部会長

はい。ありがとうございます。他にございますか。

京谷メンバー

包括連協の京谷です。今、このようにグループワークとか聴講の参加者数を見てみると団体規模に対して包括連協の人数の枠がちょっと多いのかなって感じました。例えば、聴講のみの席ができたってことは、連協の方でもありがたいねっていう意見はあったんですが、バランスを見た時にちょっと包括の数を、自分のところの数を減らすっていうのもなんなんですけど、いろんな職種って考えた時に、ちょっと数を見直した方がいいのかなって思いました。今からだともう間に合わないですよね。

佐藤幹事

いや、大丈夫です。ありがとうございます。包括連協さんの枠を他の団体にというふうにご検討いただけるのは、とてもありがたいお話です。あとは、団体さんの方で、会長さんの方でどうかたちで会員さんに発信しているのか、そしてその参集状況が今どうなっているのか確認していただけて、何名かその枠を他の団体さんにというかたちが取れるのであれば、それは全然問題なくセンターの方で調整します。

京谷メンバー

今のところ、10センターある関係で、それぞれのセンターから3名ということで召集をかけているところだったんですけども、たとえば3名ですが、会を重ねていくなかで前年度とか経験した職員もいますので、各センターから2名でもいいのかなと、全体のバランスを考えて。会長と相談して、またセンターさんの方に報告したいと思います。

佐藤幹事

ありがとうございます。

寺田部会長

はい、他でございますでしょうか。齋藤さんお願いします。

齋藤メンバー

道南地区老人福祉施設協議会の齋藤です。今回、聴講の席があるということで、道南老施協としてはかなり助かるなという感じです。実はですね、道南地区老人福祉施設協議会ってあまりご存じない方もいらっしゃるんですけど、特養とケアハウスと養護の団体なんですよ。有料とか、いろんなものが全部会員になっているかというところと違うんです。この3つがメインの団体なんですよ。やはり、施設系サービスの団体なので、介護職も施設の介護員、ケアマネジャーも、もちろん在宅での介護の事業所を持っている施設さんもあるんですけど、特養しか持っていない事業所さんは、施設の中のケアマネジャーさんしかいないんです。このケアマネジャーさん、居宅のケアマネジャーさんと施設のケアマネジャーで全然タイプが違って、居宅の場合はこういうところに来てグループワークでしゃべれるんです。でも施設のケアマネジャーさんって全然しゃべれないんですよ。だから、どっちかというところと老施協ってグループワークに参加しているのが、率先して手を上げるスタッフが少ないんです。だから逆に聴講席があれば、どんなものなのかなって様子を見に来るっていうふうを感じるんです。今回、初めて聴講席をしっかりとやってみて、実際の国際ホテルの規模でどのくらい今回の数の聴講席から増やせるのかって言うのがわかってくると思うので、そこからバランス調整していくといいのかなって思いました。

寺田部会長

はい。ありがとうございます。

佐藤幹事

ありがとうございます。先ほどですね、水越副部会長の方からもお話ありましたように、今回は一会場しか取れなかったんですね。研修会と懇親会会場が同じ会場というかたちになってしまうんです。その懇親会会場が別会場を取ることができれば、その懇親会会場分また聴講席を増やすことができるのかなと考えておりました。ただ、あとは、次年度以降もまた国際ホテルさんが取れるかどうかというところもありますので、確約はできないところではありますけれども、二会場とれるようでしたら、予算との兼ね合いをみながら検討していきたいと思います。

寺田部会長

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。たくさんのご意見ありがとうございます。参集に関しましては、今回初めて企画した聴講席の方々、特にグループワークの時への配慮だったり、工夫、あとは川口先生からもあったように医師の手元に案内が届きやすくする配慮を当日までにセンターの方が中心となって検討していただければというふうに思います。よろしく願いいたします。では、次の議事に進んでもよろしいでしょうか。では次、イの「タイムスケジュールについて」、佐藤幹事から説明お願いいたします。

佐藤幹事

協議事項（１）のイ「タイムスケジュールについて」です。資料８と９をご覧ください。今年度の大規模研修のテーマは「地域での看取りを知る～その現状とこれから～」とし、看取りに関しての基本的な現状の理解を目的に、シンポジウムとグループワークの実施を考えております。まず、看取りに関して国や函館市の動向について、座長をお願いしております川口先生から５分程度お話をいただきます。その後、施設看取り、在宅看取り、病院看取りとそれぞれの場所での看取りの現状と課題を、現場でお仕事されていらっしゃる医師の立場から２０分ずつお話をいただきます。今回、施設医はケンゆのかわの老松寛先生、在宅医は北美原クリニックの岡田晋吾先生、病院医はおしま病院の福德雅章先生にそれぞれご依頼しております。すでにご快諾いただいているところでございます。会が始まって各先生方からのご講演が終わるところまでで、大体７０分の予定です。その後、１０分の休憩を挟みまして、グループワークという構成を考えております。今年度はグループワークの時間を５０分としておりまして、その後の発表、及びシンポジストと会場の参加者との意見交換の時間を２５分、最後にそれぞれの先生方から総評をいただく時間として１５分取っております。この意見交換の時間２５分と総評の時間１５分、あわせて４０分としておりますが、この辺りの時間配分は当日の状況に合わせて、座長の川口先生にお任せできればと思っております。なお、発表いただくグループは、３グループ程度と考えております。研修会の開会挨拶、閉会挨拶は、それぞれ医師会長の本間先生、副会長の恩村先生をお願いしております。これで合計１８０分となります。懇親会は、例年通り１７：３０～１９：００の９０分となります。協議事項（１）イの「タイムスケジュールについて」の説明は以上となります。この件につきまして、皆様にご協議をいただければと思います。

寺田部会長

佐藤幹事、説明をありがとうございます。それでは、タイムスケジュールに関しまして、シンポジウム、グループワーク、懇親会をすべて含めてのタイムスケジュールに関しまして、皆様からご意見をいただければと思います。

川口メンバー

川口です。サブ司会、司会は決まっていますか。

佐藤幹事

はい。ちょうど役割分担のところでお話する予定ではありますが、まず総合司会は寺田部会長、サブ司会は齋藤メンバーにお願いをしておりました。

川口メンバー

シンポジウムの方で、各先生にご講演いただいた後に、質問はグループワークが終わった後に全ての方がよろしいですか。

佐藤幹事

はい。現段階では、そういうかたちで考えておりました。その場で手挙げしてというのも考えたんですが、もしかしたらグループワークをして皆さんの意見をまとめたうえで質問していただいた方が質問が出やすかったり、より聞きたい内容が整理できたかたちでの質問ができるのではないかと考え、このような流れとしました。

寺田部会長

はい、ありがとうございます。他にございますか。

京谷メンバー

京谷です。質問なんですけれども、前もって用紙に質問事項を記載して集めて振りわけて、バランスよく先生にお答えいただくかたちか、手挙げ式なのか、どちらで想定していますか。

佐藤幹事

グループワークの協議内容で、先生方に聞きたいことというような内容で協議していただくことになるので、そこでまずグループワーク中に整理していただくというかたちで考えておりました。ただ、聴講席にいらっしゃる方ももちろん参加できるようなかたちで考えておりましたので、グループからの質問だけではなく、聴講席の方々からも手挙げをしていただいてご質問をしていただくというかたちで、時間が許す限りにはなるんですが、考えております。

京谷メンバー

ありがとうございます。

寺田部会長

他にございますでしょうか。タイムスケジュールに関しては、このような流れでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは、続きまして協議事項のウ「グループワークの内容について」につきまして、佐藤幹事から説明お願いいたします。

佐藤幹事

資料2協議事項(1)ウ「グループワークの内容について」です。資料9をご覧ください。タイムスケジュールでは、シンポジウム終了後の休憩をはさんで15:20から開始予定です。5分程度グループワークの説明の時間をとっております。内容ですが、資料8の2枚目

をご覧ください。8人掛けのテーブルで30テーブルの予定です。今年度は、多職種での構成を考えております。テーマを①今までの経験を踏まえてのシンポジウムの感想と、②シンポジストに確認したいこととしました。進め方ですが、説明終了後、テーマに沿って個人ワークをしてもらいます。その際、記入できるメモ用紙を準備いたします。この個人ワークの時間を5分間とします。その後、各グループで司会・書記・発表者を決めて、自己紹介してもらいます。自己紹介が終わりましたら、司会の進行のもと、個人ワークの内容を発表、メモ用紙を模造紙に貼り付けながら意見交換、グループ内での共有を図ります。この時、同じような内容のものは1つにまとめ、意見交換した内容は書記に模造紙に記入していただきます。今回、部会のメンバーさんにはファシリテーターとしてサポートしていただければと思っております。また、各テーブルを回りながらグループワーク後に発表してもらおうグループとシンポジストへの質問の候補をこの時間に選定していただきます。グループワーク説明の時間を含め、トータル55分となります。協議事項(1)ウ「グループワークの内容について」の説明は以上となります。この件につきまして、皆様にご協議をいただければと存じます。

寺田部会長

ありがとうございます。では、皆様からのご意見をよろしくお願いいたします。はい、酒本さんお願いします。

酒本メンバー

発表グループの件なんですけれども、ファシリテーターが各テーブルを回って、色々な意見を見聞きすると思うんですけれども、どのグループに発表してもらおうかというのは、ファシリテーターの方が集まって協議をするのか、もうあらかじめこのグループにお願いしようかなと目星をつけておくものなのか、そのあたりどういようなかたちになるんでしょうか。

佐藤幹事

はい、ありがとうございます。今考えていたのは、ファシリテーターの方でこの質問良いなとか、この発表良いなと、この協議良いなというものをまず、担当テーブルの中で目星をつけていただきたいなと思っておりました。それをセンター事務局としておりますので、そちらの方にご報告いただいて、川口先生含めて協議をして、そのグループワークの時間の中で、ある程度どこに発表してもらおうか、どこに質問してもらおうかを決めていきたいなと考えておりました。昨年に近いイメージになりますでしょうかね。

酒本メンバー

ありがとうございます。

寺田部会長

はい、益井先生お願いします。

益井メンバー

函鍼連の益井です。今、佐藤さんからファシリテーターの担当のテーブルというお話がありました。メンバーは担当のテーブルが決められるんですね。今年は多職種でということで、1つのテーブルに多職種が入るんですね。各メンバーがどこのテーブルのファシリテーターになるのかあらかじめ決まっています、そこに張り付いて、ということですね。

佐藤幹事

はい。後程ですね、役割分担のところでも改めてお願いとなりますが、お一人のファシリテーターさんに、だいたい3〜4テーブル担当していただくかなと考えておりました。どこのテーブルを担当するかというのはセンターの方で割振りさせていただきたいと思っておりますが、今回ファシリテーターの皆さんにお願いしたいのは、きちんとディスカッションができていないか、もし止まっているところがあるようであれば、声かけをしながらヒントを出しながら、活発なディスカッションをしていただければというなかたちでのですね、フォローをしていただければと考えておりました。

益井メンバー

はい、わかりました。ありがとうございます。

寺田部会長

はい、他にございますか。岩井先生お願いします。

岩井メンバー

歯科医師会の岩井です。ちょっと確認しておきたいんですが、多職種で8名ということは、ほぼみんな違う職種ということですよね。なるほど。去年は自職種でしたけれども、これが本来のですね。テーマがシンポジウムの感想とシンポジストに確認したいことってというのは、これ先ほどあった、質問事項とかも入るんですね。こういうところ、もう少し、深いところを聞いてみたいとか、そういうことですね。はい、わかりました。前回僕出てなかったんで、確認しときたかったんで。ありがとうございます。

寺田部会長

はい、他にございますか。個人ワーク用のメモ用紙は今のところ、A4サイズをイメージしていませんか。

佐藤幹事

はい、そうですね。実は、先日コアメンバー会議を開かせていただいて、部会長、副部会長、今年度は齋藤さんの方にコアメンバーとして参加していただきました。その中で協議した中では、A4サイズの紙を用意して、そちらに個人ワークの記載をしていただくというかたちで考えてはいるところなんですけど、まだまだ研修までの間にこの点も含めて協議をしていきたいなと考えております。

寺田部会長

はい、他にございますか。

水越副部長

先程、話の中で行き詰ったというか、あまり発言が無かったり、意見が無かったりっていう場面があった場合に、皆さんどのようなかたちをすれば意見が出てくるかというのはある程度皆さんで共有しておいた方がいいような気がするんですけども、川口先生どうでしょうか。たぶん、我々は我々の考えで言えると思うんですけど、なんかこう、つまりいているときに、例えば質問事項を中心に考えていっても良いでしょうし、実際の自分の携わっている職業から言っても構わないと思うんですけど、どなたがそういうところに当たるかわからない部分もあるので、いつもファシリテーターは何度か経験はしたことあるんですけど、うまくいった場合はドーッと意見が出ることもあれば、助言してもあまりということもあるものですから、逆に皆さんのお考えを教えていただければいいんじゃないかなと。

川口メンバー

まず、多職種が集まって初対面の人が結構いるので、最初そういう時って、アイスブレイクとか自己紹介とかがあるので、その辺結構最初にうまくやらないと議論が弾まない可能性があるかなと思います。例えば、アイスブレイクの時に何か一言付け加えるだけでもちょっと場が和むことってあるじゃないですか。ただ、あまり時間が取れないので、バババッと行くんだけど、すこしわかるような。本当はテーブルの中に一人ファシリテートを担える人がいると一番いいんですけど。雰囲気見ながら、誰がやるんだという感じになるので、例えば、あらかじめこちらで班分けした時に、この人にこのグループのリードをお願いする的なことを決めておいた方がいいのかもしれないです。それでも弾まないこともあるので、それを3、4テーブル見ている部会のメンバーがどうやるかってことですよ。ひとつは一番普段そういうところで発言しづらいというか、さっき言っていた施設のケアマネさんとかっていうのは発言しづらいんですけどっていうように、介護系の人とか、医療系を前にしてなんかね、その辺をうまく言いやすいように「本当はこういうこと聞いてみたいですよ」みたいな感じで個人的にはするのかなって。あんまり意見を常に言いそうな人よりは言わない人をうまく拾ってあげるといいのかなって感じはします。

寺田部長

コア会議の時も、グループワークの最初に急にしゃべりだすのは難しいだろうということで、まず個人ワークを取り上げたんですけども、意見出しにくいとなると、普段看取りに関わることがない、これからも無いであろう人が、たぶん後ろめたくて発言しにくいのかなっていう部分があるので、もしかしたら関わったことがあるか、ないかを明確にしてある方から発言とか、ない方の発言とかっていうふうに、振り方を工夫したら自信をもって発言しやすいのかなって、今お話を聞いていて思ったんですけども。皆さんからも何か工夫とかありますか。

京谷メンバー

水越先生の話聞いて、看取りに縁のない職種、立ち位置の人が参加した時に、その人数

が多いと、本当にしーんとして終わって、質問もなければ意見もない、悪気無く出ないということは出るだろうなと思ったので、その準備をしなきゃと思いながら聞いていたんですけども、中に一人でも看取りの経験がある人がいると話が進むのかなと思ったので、混ざっているかたちがいいのかなと思ったり、今まとまらない中ですが、この前別の研修に参加した時に、8人で意見言いましょうとなった時に、1人ずつ言っているうちに時間が来たり、最初がなんだったのかわからなくなったりするなかで、別の研修で、半分に分かれて4人、こうだよ、こうだよ、でグループの中で2つ意見を出すみたいなきり方をしたことがあったんですよね。たとえばここで言うと、輪になった時に8人だとなかなか声も聞こえないかなので、2人とか4人とかで、どんなのでた？だよ、だよ、って確認する中で、4人の意見だと自分の意見もうやむやになって声出しやすくなっているところ、こういう意見です、そういう意見ですってグループの中で2つに分けたかたちで最初話進めるのもこの前良かったなと思いながら。まとまらないなかで部会長さんに振られてしまいました。

寺田部会長

他にもそういう工夫ありますか？

京谷メンバー

個人ワークというか、2人ワーク。個人ワークしても結局、「どうしよう、私何も無い」と思いながら、だんだん暗いスタートになるけれど、2人ワークだと、「無いよね？無いよね？」「でも何何だよ」と話し合える。どうでしょう、2人ワーク。

佐藤幹事

4人ワークでも良いかもしれないですね。そうですね、正直ですね、グループワークを行うのに、1テーブル8人、9人はちょっと多いなっていうのは常々感じる場所なんです、いかにせん、会場の関係、テーブルの関係、できるだけ多い人数の方に参加していただきたいというところで、ここにこういうかたちでの開催を続けてはいたんですが、今新しい発想で確かにテーブルは1つ、8人だけでも、その中でさらに2つに分かれる、4つに分かれるということはあり得るやり方かもしれないですね。

京谷メンバー

2人ワークだと、個々の距離感も近くなって意見も出しやすかったり、さらに4つの意見が出た後に、「でも」って意見を重ねていくときに連帯感があるので、意見も自信を持って出していきやすくなかったかなと思ったので、2人ワークどうでしょうね。

佐藤幹事

良いかもしれないですね。もし、人数が奇数になるようなことがあれば2人、3人というかたちで組んでいただいて。あとはうまく職種がばらけてくれれば良いなと思うところでしょうか。例えば、たぶん包括さんと居宅が今の人数のままにすれば1テーブルに1人ずついらっしやったりすると思うので、ここをうまく分かれるかたちになるとか、職種が少しばらけるようなかたちで個人ワークも行えればとお話を聞いていて思いました。確かに良い案

だと思えます。

水越副部長

今の話の結論なんですが、非常に2人ワークというのは良いと思えます。実際、1人ワークでこう考えて書き留めて、それが全体の話になった時になんかこう、発言もしないでもさもさしているというようになりがちだと思うので。メンバーの構成によっては、非常に最初から弾むこともあるだろうということも考えられますよね。先ほどの質問では、その盛り上がらない時にファシリテーターとしてどういうかたちでファシリテートしていくかの情報を共有した方が良いという話でしたので、それはファシリテートするメンバーが割り当てられたグループの状況を見て、いまひとつ盛り上がっていないようであれば、最初の段階で2人ずつ話し合ってくださいってその辺はメンバーのファシリテーターが決めさせてもらって進めていいということなんですか。それとも完全にこうしようと最初から決めちゃうことになりますか。

佐藤幹事

そうですね。そのあたりは限られた時間でもありますので、よりスムーズにテンポよくということを考えれば、ある程度決まったかたちでどのグループも行っていった方が良くと思うんですね。なので、個人ワークになるのか、2人ワークになるのか、どちらかに統一するというかたちで考えていきたいと思えます。皆さんとしては、2人ワークが今のところ賛同いただけると捉えていてよろしいでしょうか。個人ワークより2人ワークでしょうか。

山本メンバー

山本です。うちの業界も看取りに携わることがほぼないので、2人ワークというのはすごく良いなと。僕自身も2年前の研修の時に、グループワークに参加した時に、やはり発言する機会が少なかったんですね。それで、同じ職種のメンバーに聞いてもやはり少なかったというところがあったので、2人ワークというのはすごくいいなと感じたんですが、じゃあその2人ペアになる席順というのも決定して案内しなければいけないのか、それこそ、多職種が集まるなかで関わりが少ない2人が席隣になってしまったら、それもまた話が弾まない、何も意見が出ないということになると、席順も決めておいた方がいいのかなと感じました。

佐藤幹事

そうですね。たしかに、先ほど私も同職種に近い2人のグループにならない方がいいのかなっていうイメージも浮かびながらお話していたんですが、ちょっと検討させてください。どういうかたちで2人のワークのコンビを決めていくのか。この職種とこの職種でお話してくださいってかたちで当日のアナウンスとかたちにするのか、はたまた先ほどご提案あったように席を決めてとかたちにするのか、何か印をつけてとかたちにするのか、その辺検討させていただければと思います。あとは、名札で席を置かせていただいて席順というところまでは当日いいかたちでばらけるような感じで名札を席に置かせていただいて、そこに座っていただくというのもひとつかな、どうでしょう、ちょっと検討してみます。

京谷メンバー

2人ワークにこだわってすみません。わからない人同士，看取りに関係の無い人同士が隣り合わせなことも良いなと思うんです。1人だと質問しにくいこととかも，わからない人同士なら自信持って「経験ないからわからないよね」ってことで。例えば，その前のシンポジストへの質問事項でもいいと思うんです。聞いていて率直に感想だったり，わからないことぐらいはでるかなと思うので。そのわからないこともレベルがというか，種類がすごく簡単な部分だったとしても，それこそそれに回答していただくことこそが，本当に多職種が同じ見解で理解を深めることだと思いますし，多職種から見てそういうことも質問に入ってくるんだ，職種によっておそらく質問の観点も違ってくると思うので，そういうことが基本なんだということが質問をとおしてわかることも研修の効果かなと思うので，わからないペアもそのままでもいいのかなと思いました。以上です。

水越副部長

皆さんの聞いていると，どれも良いなと思ってしまうんですが，まとまらなくなってしまうんですけれども，最初の私の意見は，益井さんがおっしゃったように助言するならどう助言するのが良いかということだったんですが，いろいろ聞いてみて2人ペアっていうのは非常に良い方法だなと思っていて，そこまで指示しなくても司会の方よろしくお願ひしますってかたちでも全然問題はないかなって気はするんですよね。今の時点で2人組にするって部分だけを決めておけばいいということかなって気はします。色んな方が集まるので，どのパターンをとっても間違いはないですし，どのパターンをとっても絶対正しいっていうかたちにはならないと思うんですけど，そんななかで2人組っていう部分だけはいいいんじゃないかなって気はします。

佐藤幹事

2人ワークというところまでは皆さん，全員一致でご賛同いただけるという状況が確認できたかと思うので，ここは決定とさせていただきます。その後，京谷さんのご意見，山本さんのご意見，それぞれセンター及びコアメンバーの皆さんと協議させていただいて，どうするかたちをとらせていただくのかということ，また改めて協議の結果を皆さんにご報告したいと思います。ありがとうございます。

寺田部長

他にご意見ございませんか。では，次の議事に進めさせていただきます。続きまして，エの「役割分担について」に関して，幹事から説明お願いいたします。

佐藤幹事

資料2協議事項(1)エ「役割分担について」です。資料8，9をご覧ください。総合司会は，部会長の寺田様をお願いいたします。サブ司会として老施協の齋藤様，事務連絡やグループワークの説明をお願いいたします。副部長の水越様には懇親会の司会をお願いいたします。また，先ほどからも出ておりましたが，シンポジウムの座長は川口先生をお願いい

たします。受付や会場準備等はセンターの職員と医師会病院の職員で対応いたしますので、研修部会のメンバーの皆様には、グループワークの際のファシリテーターをお願いできればと思っております。30テーブルを分担していただきますので、お一人3～4テーブルくらいの担当をお願いできればと考えておりました。グループワークの人数とテーブル数が確定しましたら、改めてファシリテーター会議を開催できればと思っております。ファシリテーター会議は、予定では10月の上旬にとは思っておりますので、皆様には改めてメールでご連絡したいと思います。協議事項(1)エの「役割分担について」の説明は以上になります。ご協議の方よろしく願いいたします。

寺田部会長

ありがとうございます。ただ今の説明に関してのご意見をよろしく願いいたします。

水越副部会長

一応、確認するまでもないかもしれませんが、懇親会の時にですね、途中でお一人かお二人かにしゃべっていただくということでもよろしいですか。それについてはその時の状況でよろしいですか。

佐藤幹事

お任せいたします。

寺田部会長

あと他にございますか。よろしいでしょうか。では、全体をとおしまして、皆さんからご意見ありましたら改めて頂戴したいと思います。ございませんか。なければですね、次回の部会について、運営担当の幹事から説明お願いいたします。

佐藤幹事

次回の部会は、随時、改めて日程等を各メンバーの方々にお伺いして開催しようと考えておりますので、ご了承お願いいたします。

寺田部会長

他にございませんか。なければ、全ての議事が終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

栗田地域包括ケア推進課主事

寺田部会長、どうもありがとうございます。それでは、以上をもちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の第8回会議を終了いたします。皆様お疲れ様でした。